



お
い
し
い

い
な
い
か
ら。

BUT SHE'S GONE.

R18
ADULT ONLY



夢か…

ああ…



あの子の顔も
匂いも

もうはつきりとは
思い出せないのに

目の前に
いるみたいに
鮮明で

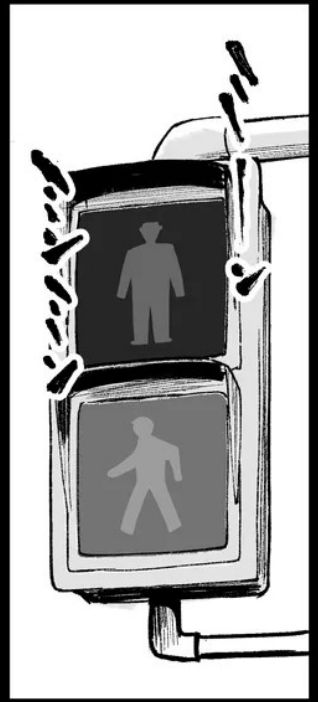


そんなこと
あるはずなのに



子供の時
みたいに
体を重ねている





もういないもんね







毎年必ず
夏には帰る
用事がある

大学生になって
地元を離れたが



あやめの墓参りだ

お待ちください

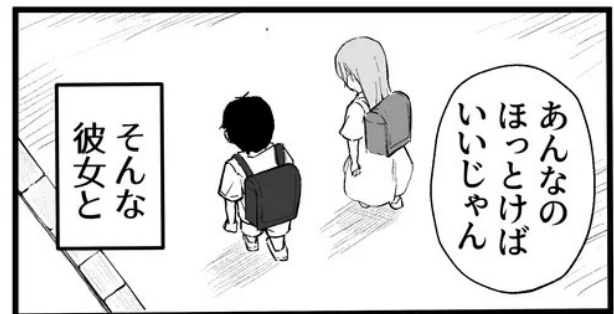
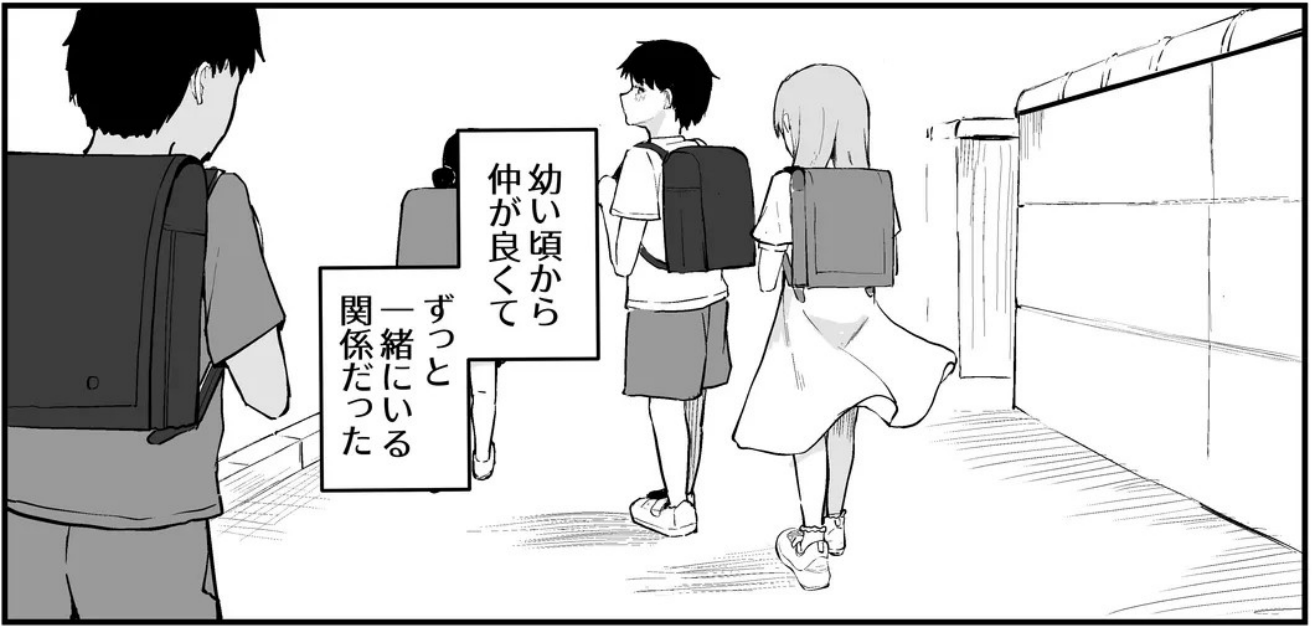


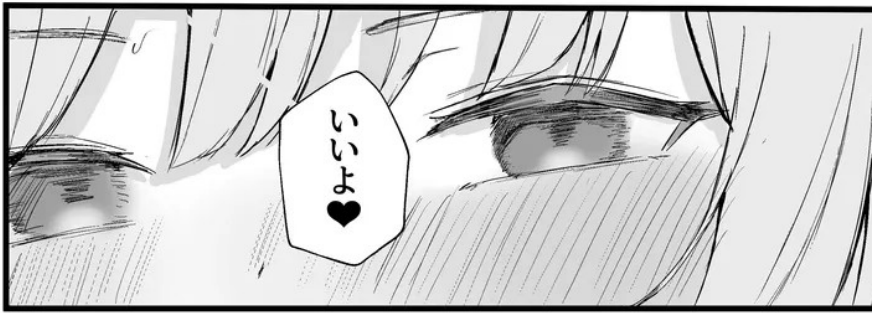
どうしようもなく
魅力的だった

あの子は
自分や周りとは
違う子供で

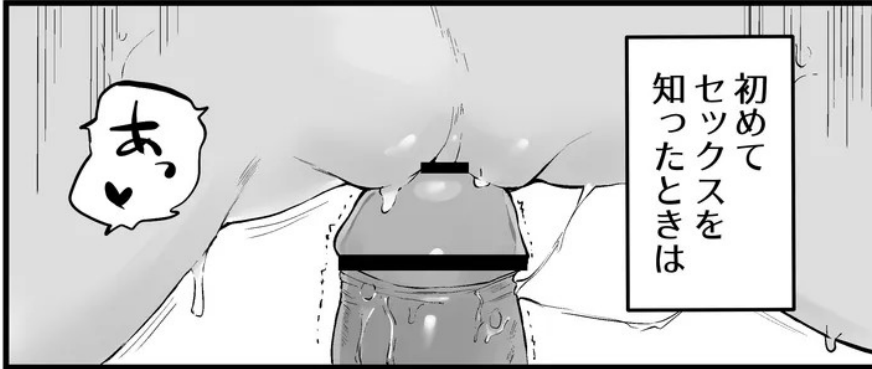


思い返して
みても





自然と
性に関心が
向くようになって



初めて
セックスを
知ったときは



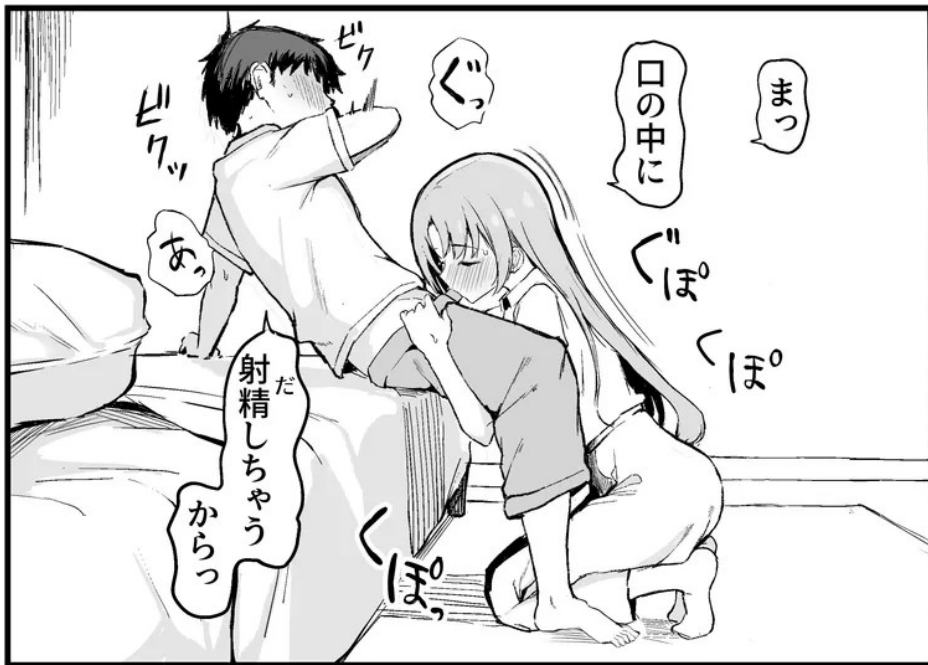
優斗の…
全部
入っちゃった…♡

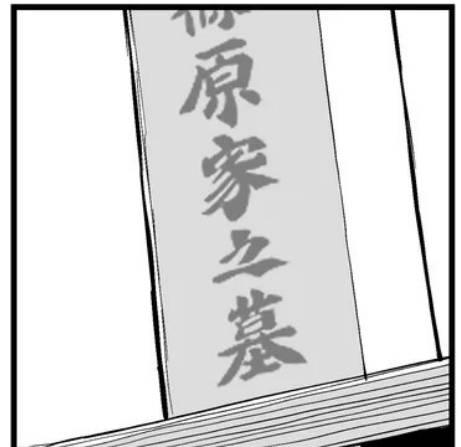
世界のすべてを
手に入れたような
気持ちだった



学校が
終わってからは
互いの家に集まって

性的なことを
試すのが
日常だった







前方不注意の
車に巻き込まれ

ただそれを
眺めることしか
出来なかった



彼女を家に
送る途中

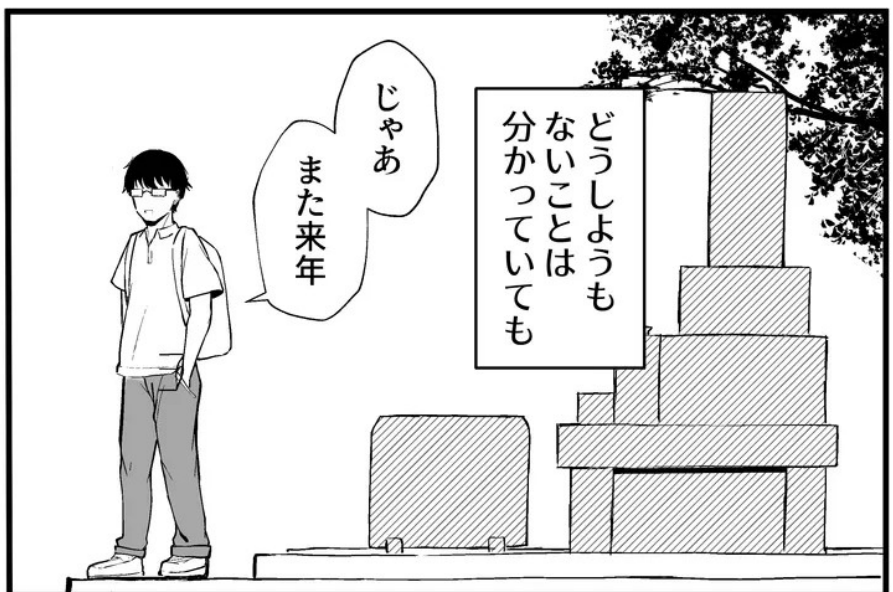


…僕はもう

大人に
なったよ



ずっと過去の
思い出を
引きずっている




どうしようも
ないことは
分かっているも

じゃあ

また来年






この先あの子が
いない人生を
送るよりも

ここで子供を
助ける方がよっぽど
マシに思えた



走馬灯見ないな
とか

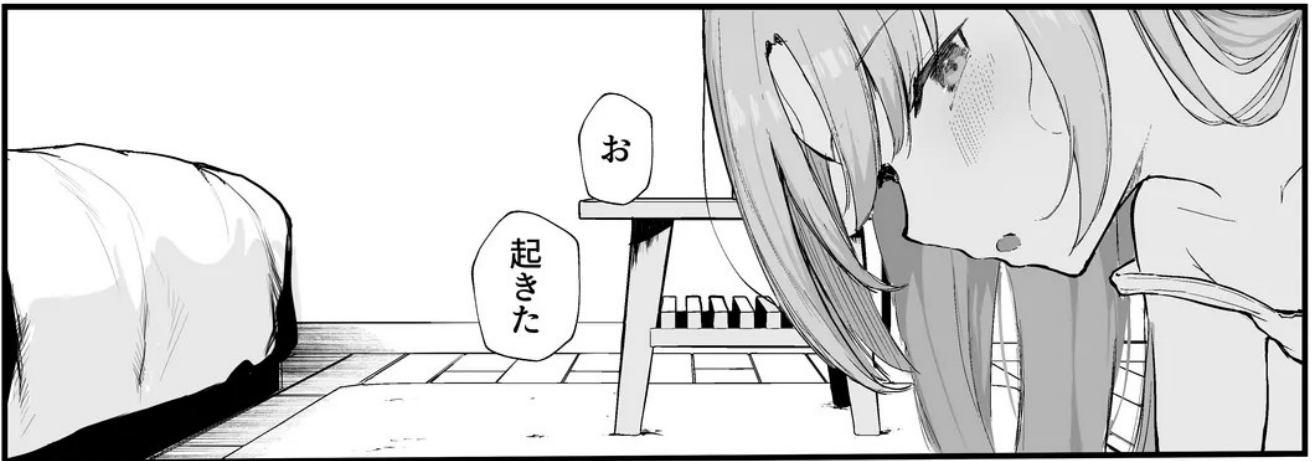
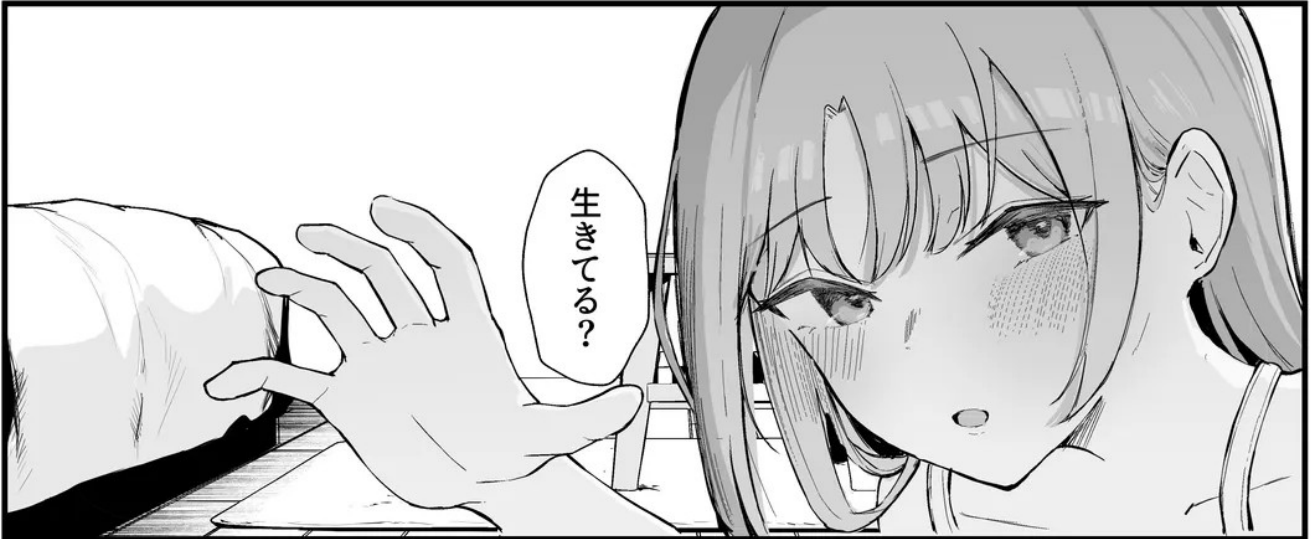
とりとめの
ないことを
考えながら

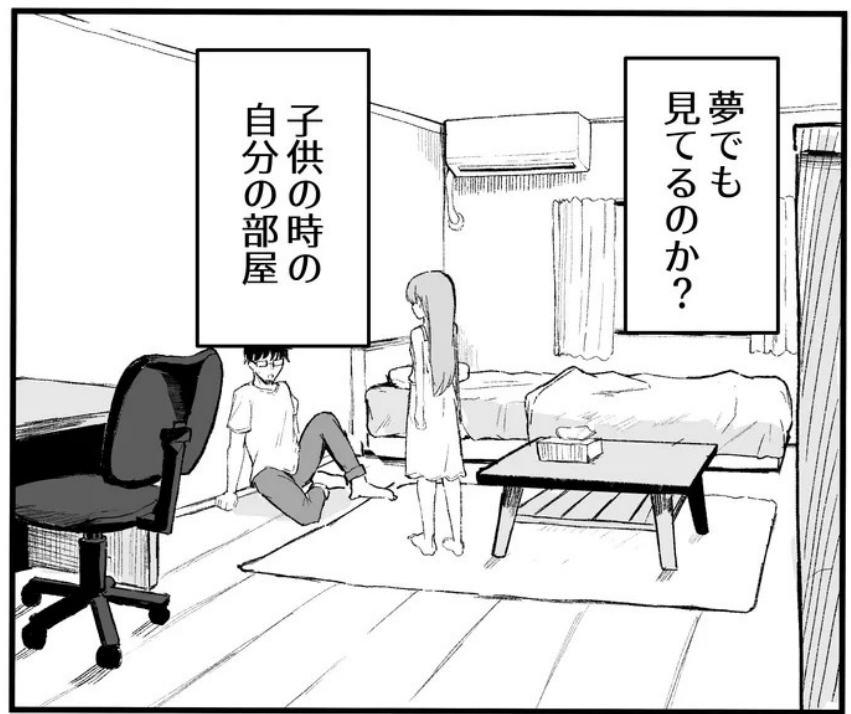


もっと運動
しとけば
良かったなとか



僕は意識を
手放した





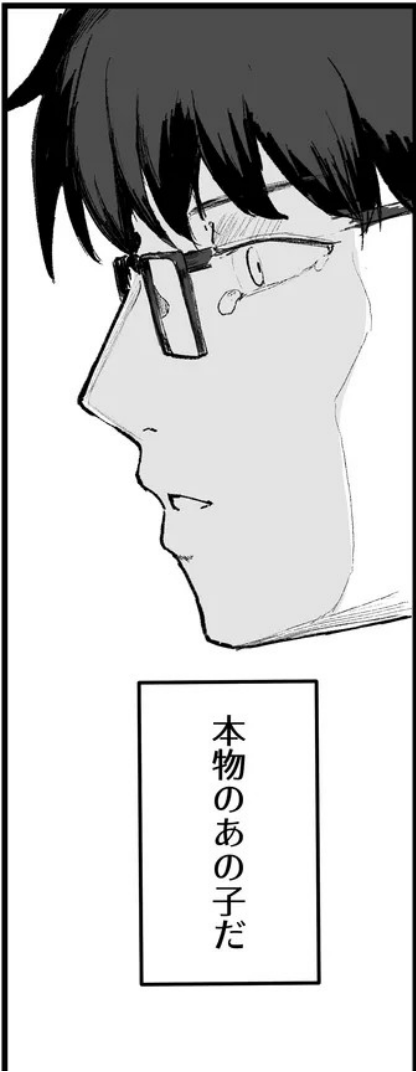


夢で見た
彼女とは違う



なんで
あやめが
ここに

ねえ
大丈夫？



本物のあの子だ



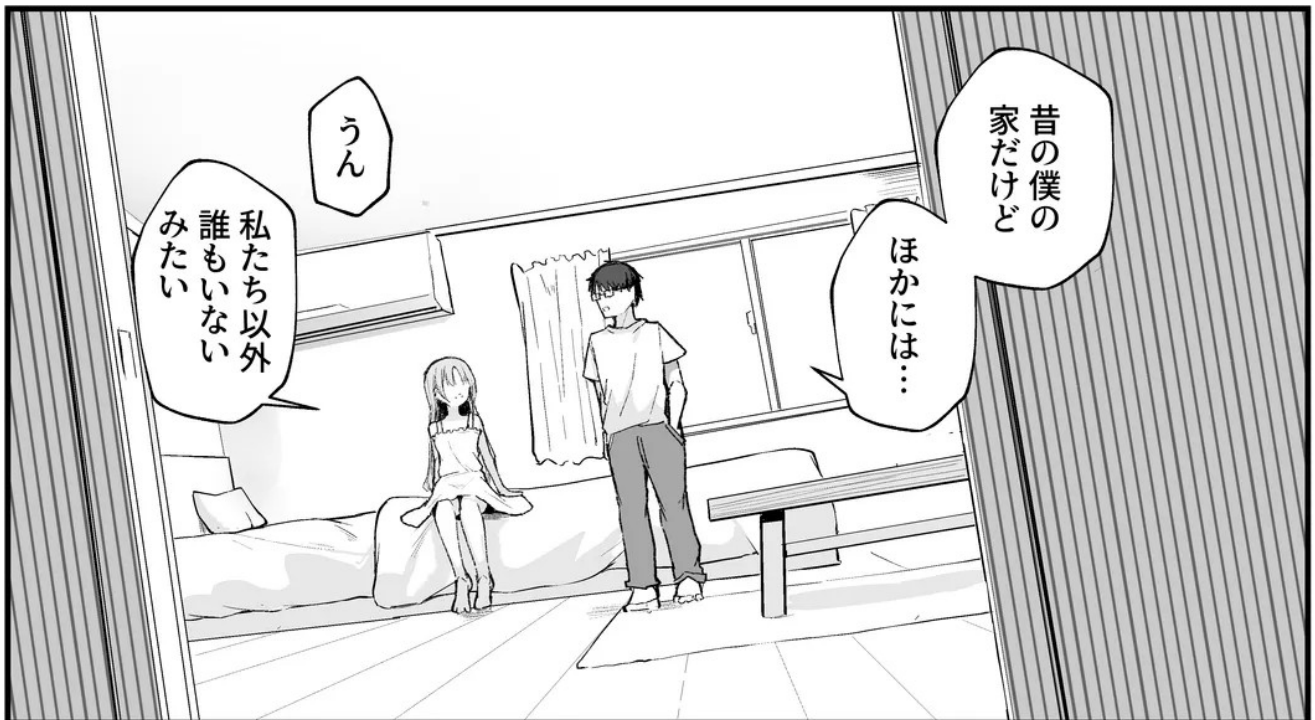
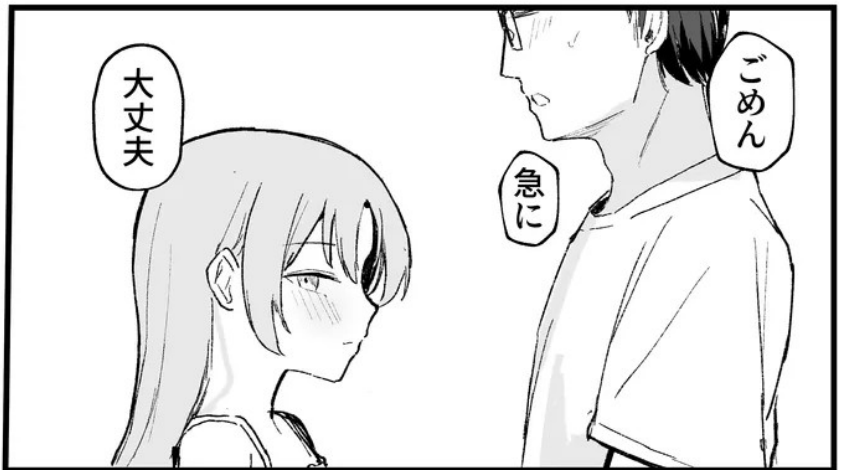
ずっと
黙っちゃって

変なの

匂いも声も

あの時のまま







今はそんな
ことよりもさ

久しぶりに
会えたん
だから

したいこと
しようよ



はっ...

今はもう...

どうでもいっ



優斗は

...大きくなったね

彼女をまた
抱きしめ
られるなら

何も
必要ない

んむっ♡

あっ♡

っく
えあっ♡

はあっ♡
はあっ♡
はあっ♡



そんなに
興奮しちゃった？

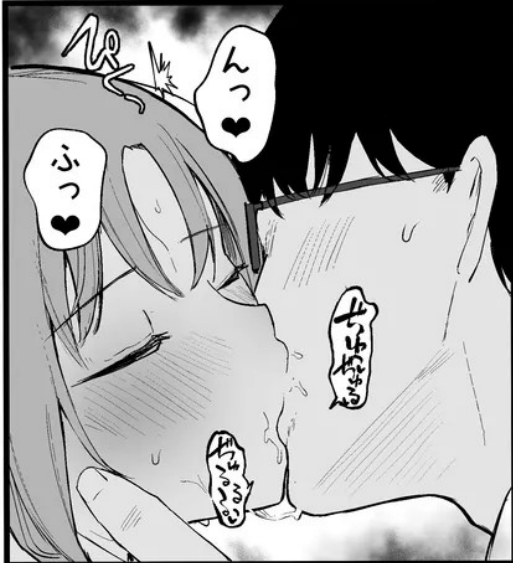


んっ♡

ぶっ♡

はあっ♡

はあっ♡



あっ♡

あやめだって

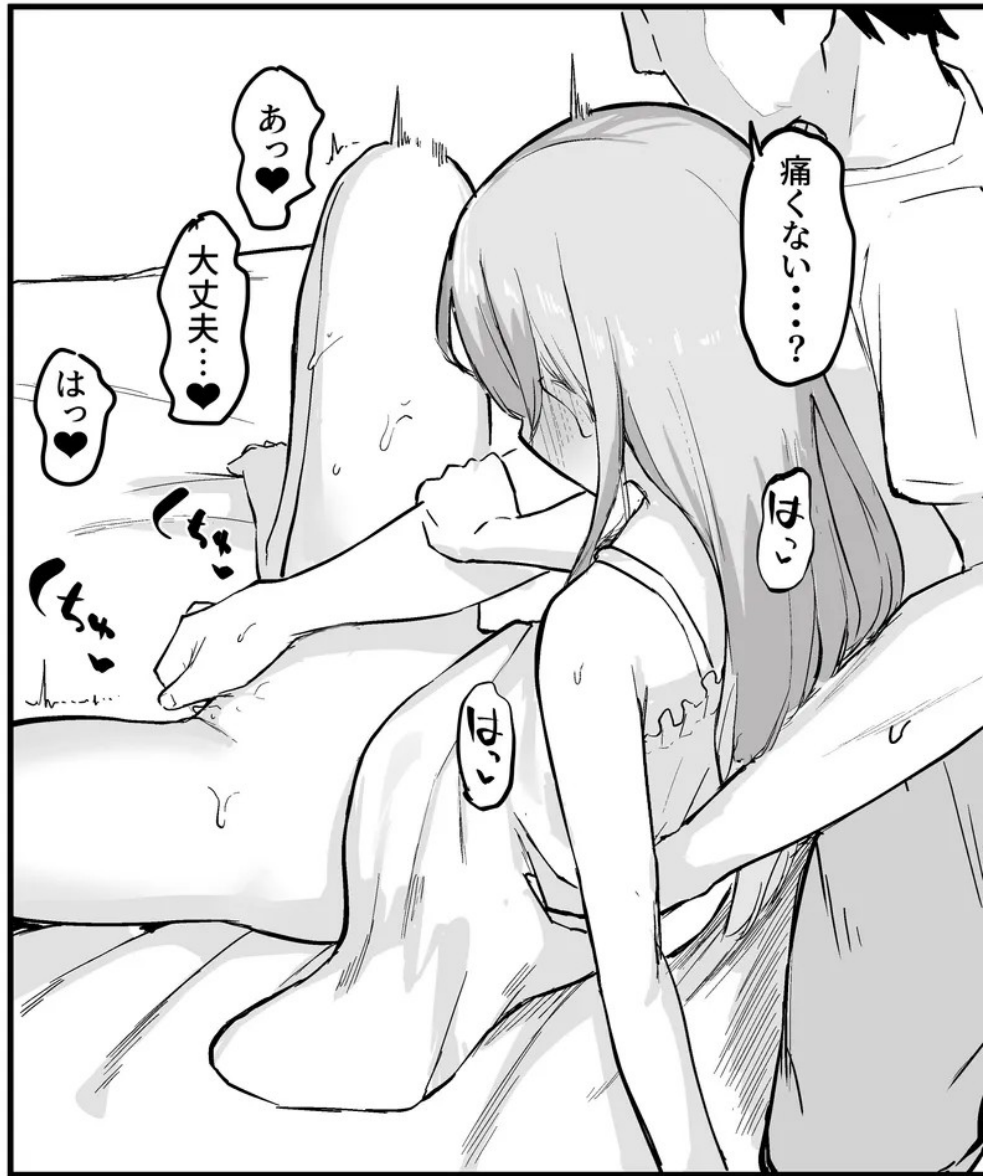
はあっ

興奮してる
みたいけど

あっ♡

んっ♡







言わないですよ...♡

んっ♡

初めて
みたいな
ことっ

うま...く
入らなくて

ごめんっ...

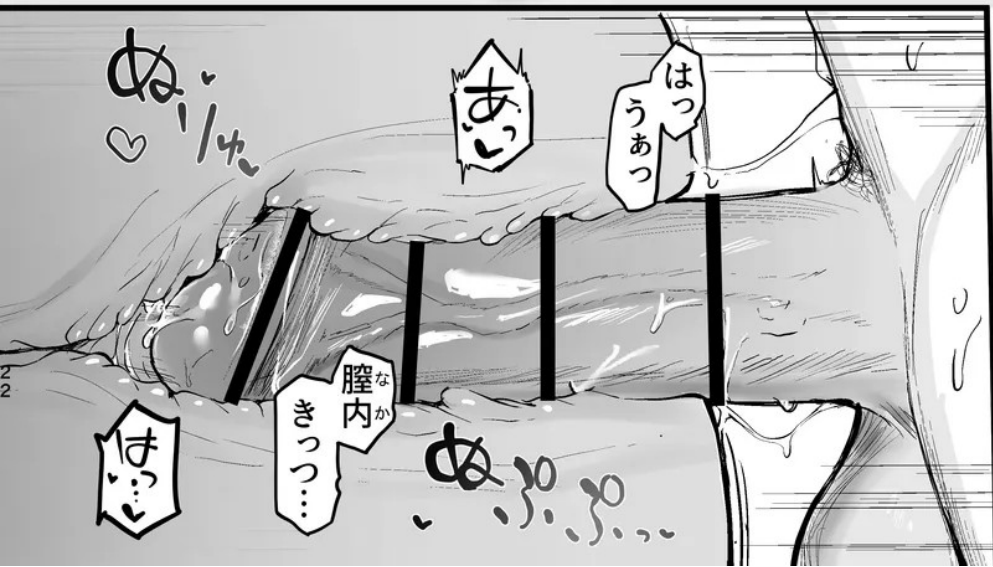
ちんぽ
滑っちゃって

あっ

はっ...

ぬるん

はっ...



あやめっ...

はっ
うあっ

あっ

膝内か
きっ...

はっ...



自分は今こんなに大きくなってしまったのに

昔みたいに受け入れてくれる小さな背中が

愛おしくてたまらなかった

ずい

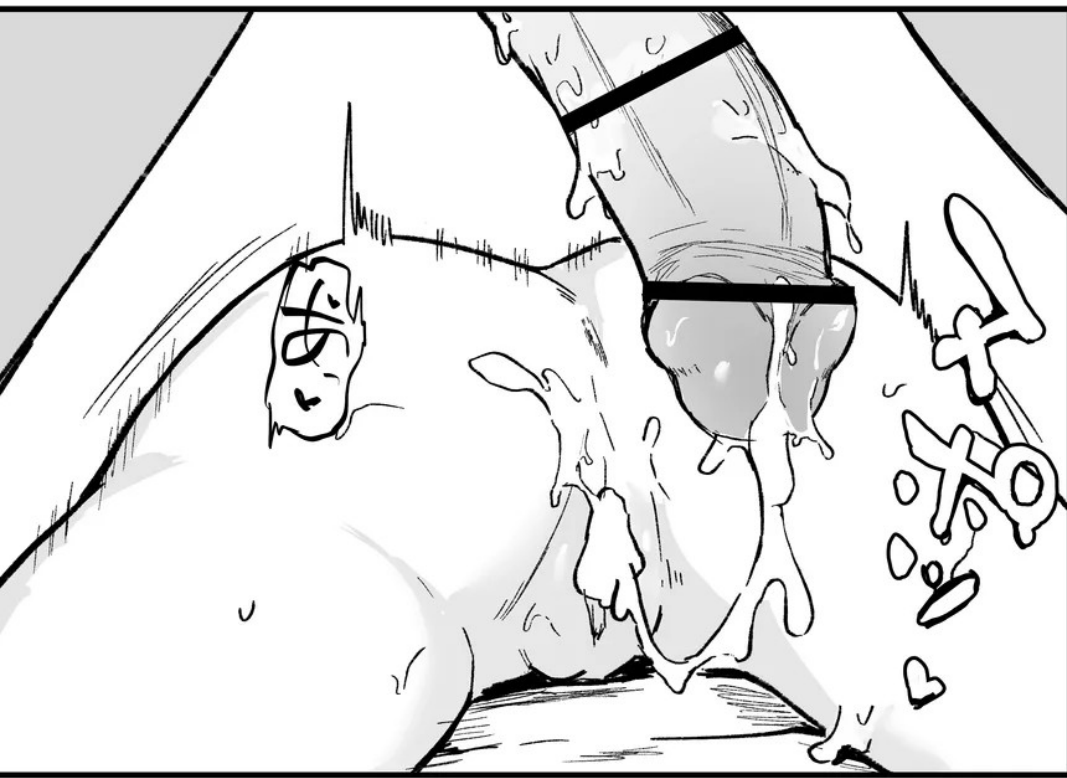


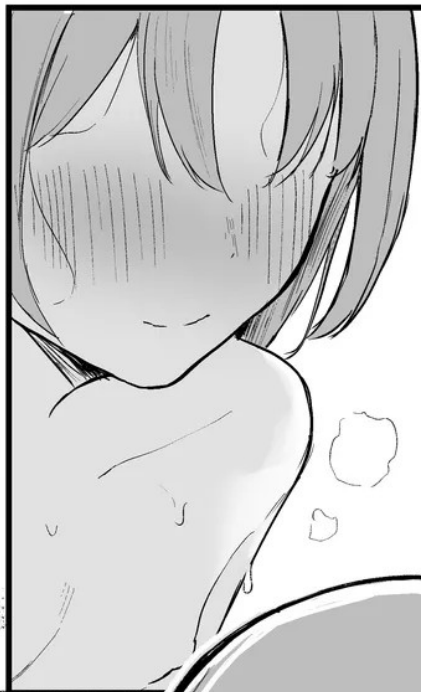
昔のとき…♡

おちんちん♡

全然違うね









あー

ん

本当にもう

あー

おしまいに
しちゃうの？



せつないよーって

こんなに
うなってるの？

みぢい

おぢい



ほらわかる？

もっとおまんこ
気持ちよくしてーって



射精管理
するような
言葉責め

昔よく
されていた…

は

は



やめちゃダメ♡

射精^だしちゃダメ♡

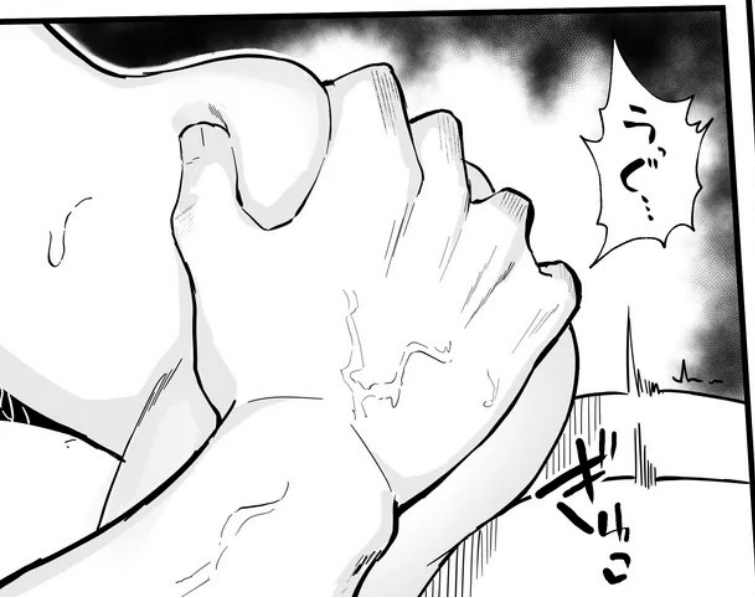


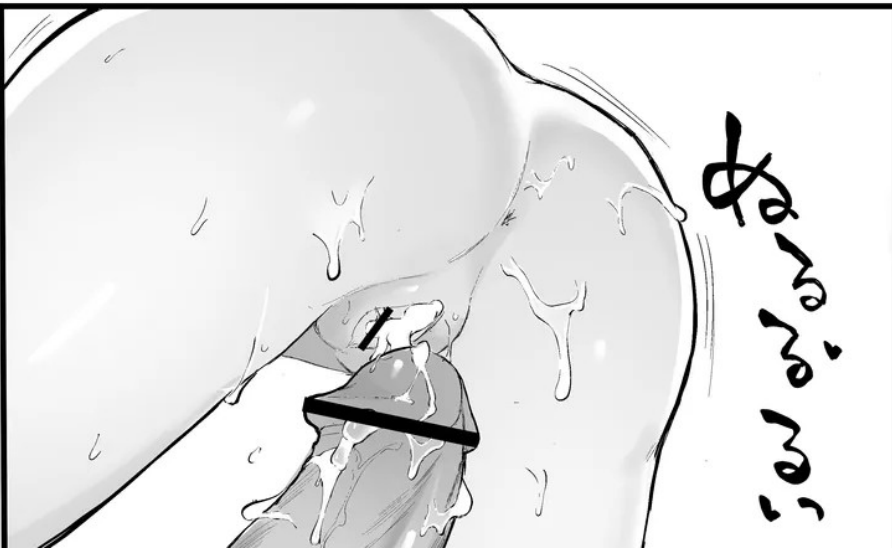
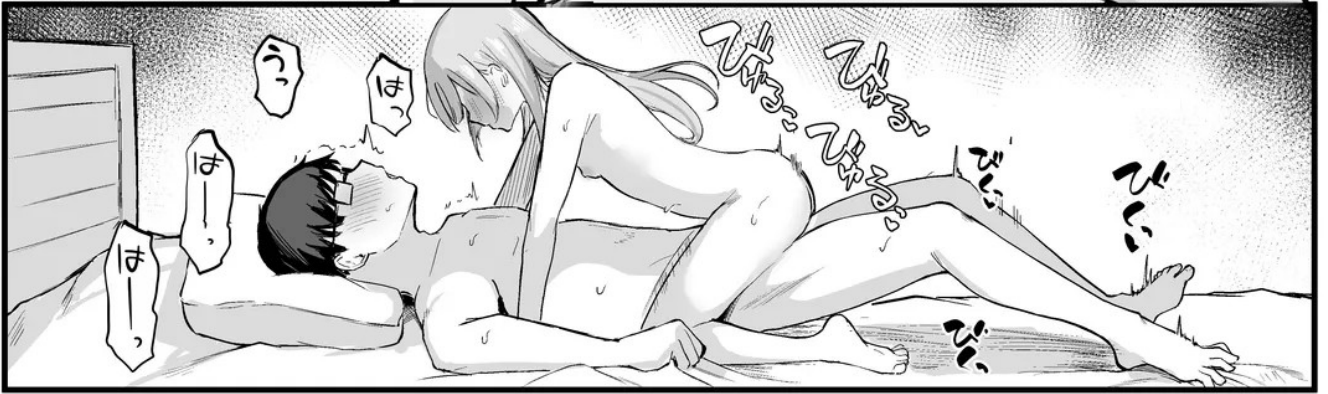
がんばれ♡

ほらがんばれ

ガクッ
ガクッ

ヒクッ



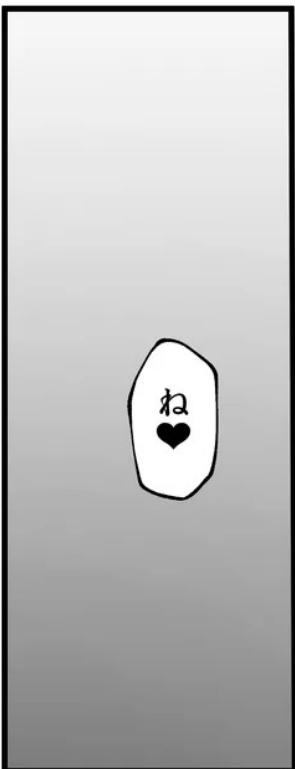




2回目なのに
すごい量:♥

うあつ

ちよつ...



もっと
できるでしょ♥

まだこんなに
カチカチ
なんだから



はー

はー



僕たち以外
誰もいない
ここがどこで

なぜあやめが
いるのか



ん
ちゅーっ



今は
考えないよう

無我夢中で
セックスをした



ひたすらに
彼女を求めた

失った時間を
少しでも
埋めるように



おはよう

うう…



おはよう

うん…

よく眠れた？



散歩いこっか



ちよつと
話があるんだけど

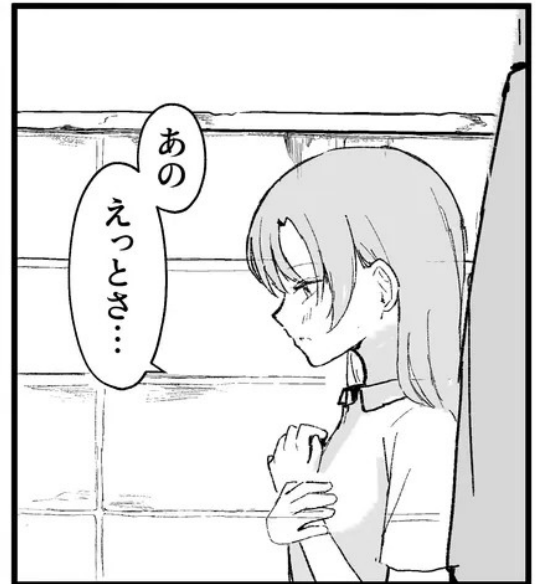


ある程度
何を話すか
想像はついていた



この子は
ずっと少女の
ままなんだ

ああ
こんなに
緊張して

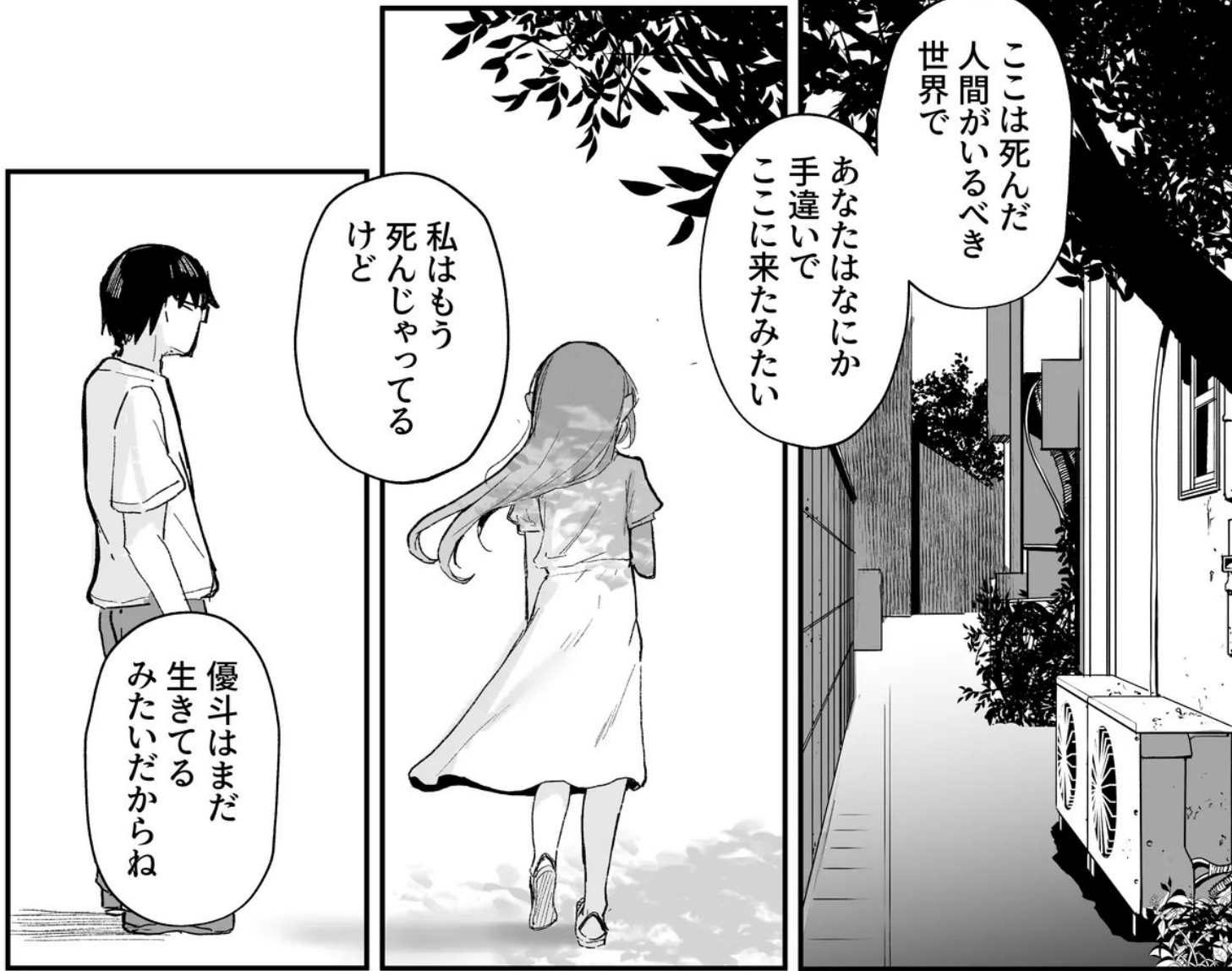


あの
えっとあの...



…うん

ここが一体
どのなのか
あやめは
知ってるん
だよな?



ここは死んだ
人間がいるべき
世界で

あなたはなにか
手違いで
ここに来たみたい

私はもう
死んじゃってる
けど

優斗はまだ
生きてる
みたいだからね



そっか

ごめんね

なかなか
言い出せなくて

大丈夫



きつと
傷付くと
思ってた

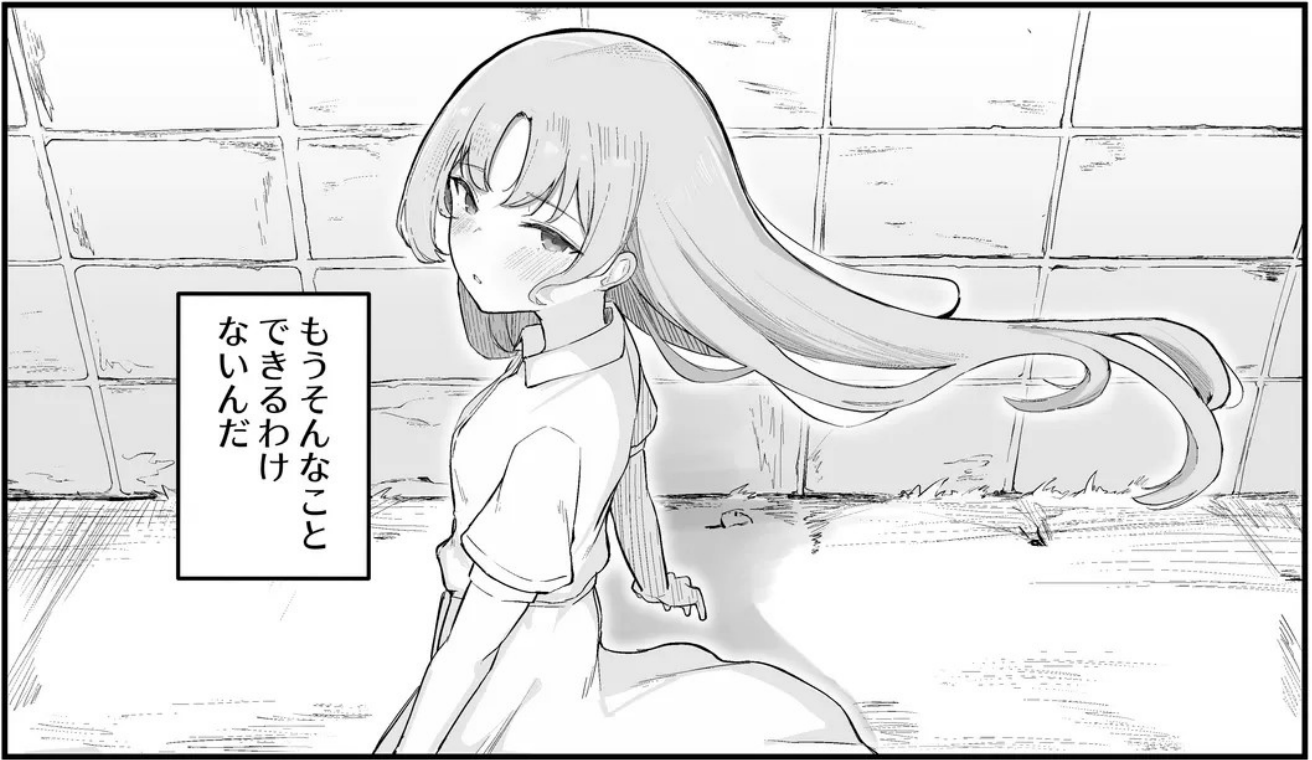
君はいつか
ここから
消えちゃうから

うん…



まあ
そうだよな

また昔と同じように
歩けると
思っていたけど



もうそんなこと
できるわけ
ないんだ



：家に
帰ろっか





多分ね

ここが
消えるまで

そんなに
時間ないよね

何となく
分かるんだけど



ふふ
私は気持ち
良かったけどね



ごめん
色々出来た
はずなのに
ひたすら
エッチしてた



うん
昔のままだ
誰か

ほら優斗
この公園



そっかあ

んー
秘密
死んでからの
お楽しみ

あやめはここに
来る前
どうしてたの？

最後まで
恰好つけようと
思ったんだけど



ただいま
って誰もいないか

あやめがない
世界で生きるの
は

やっぱり
やだよ

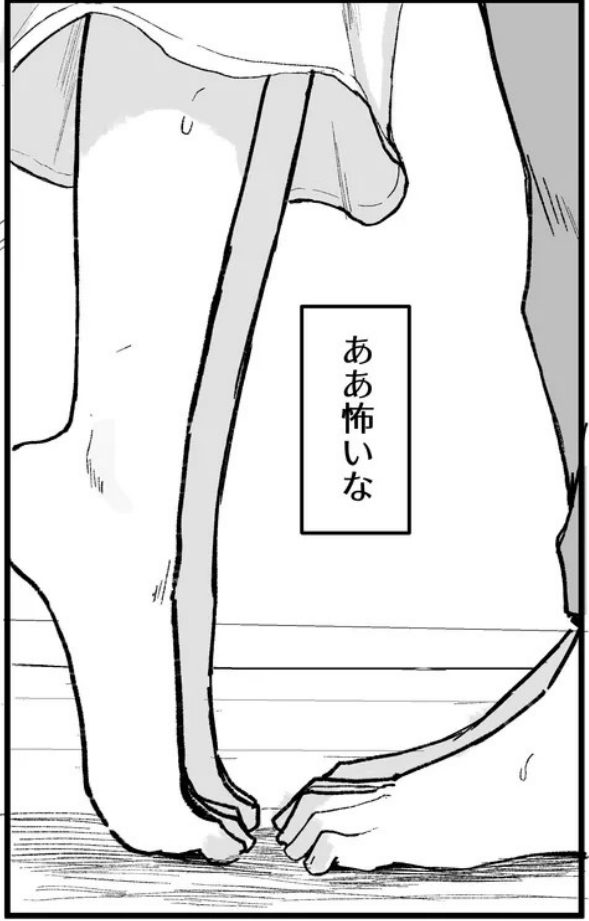
もう
泣かないで

ほらぎゅって
してあげる



ずっとこの子を
抱きしめて
いたいのに

行かない
いけない
なんて

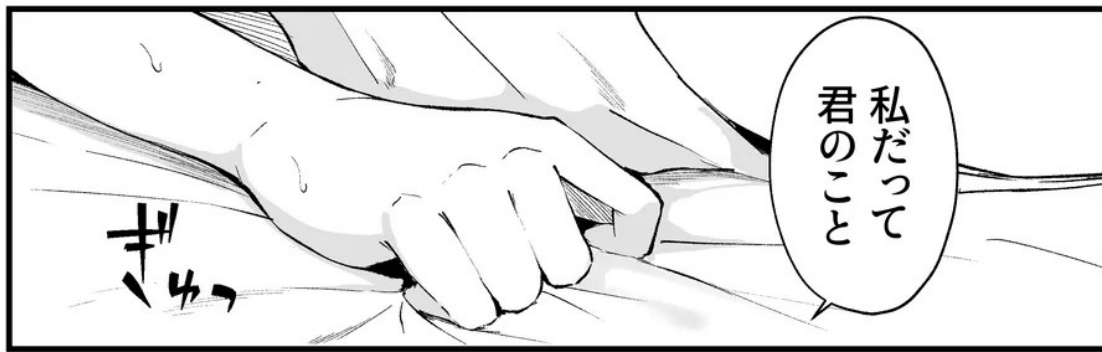


ああ怖いな



うん

ベッド
いこっか















あの輝かしい
日々を
やり直すことは
できない



過去には
戻れないし



時間がすべてを
前に押し進めて
しまう

交わった体液も
消え去って

つないだ手のひらの
感触は
思い出になって



胸が張り裂けるくらい
好きだった
あの女の子は



ポケットに
手を入れて
歩くしかない

重たい足を
引きずりながら



もういないから

もういないから。

■発行

2025/12/31

サークル red miso soup

著者 赤だし

mail akadashi1210@gmail.com

pixiv <https://www.pixiv.net/users/66790112>

■印刷 サングループ

■この漫画を描くにあたって自分を支えてくれた方々と読者の皆様に深謝します

■special thanks 鬼頭サケル先生 かぶらな先生 池石野先生

■この作品はフィクションです。実在の人物、団体とは関係ありません
また権利者以外が許可なく転載や複製することを禁じます